

# 24年度一次電気電子問題略解

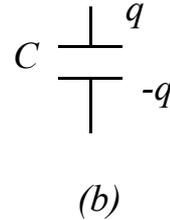
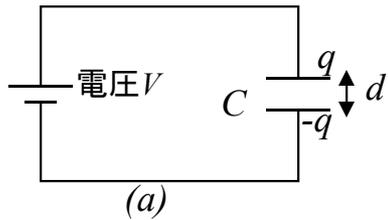
計算問題中心

## 問題分野と正解番号

IV-1④	平行板電極間に働く力
IV-2④	マクスウェルの方程式の意味
IV-3②	直線状導体の作る磁界の計算
IV-4④	直流回路の電流計算
IV-5①	直流電圧源回路の電流源回路への等価変換
IV-6②	直流電圧源回路の電流源回路への等価変換
IV-7④	合成抵抗の計算
IV-8④	RC回路の過渡現象計算
IV-9②	RC回路の過渡現象計算
IV-10④	回路理論に関する正誤問題
IV-11③	交流ブリッジの平衡条件
IV-12④	水力発電所の出力計算
IV-13④	熱サイクルに関する正誤問題
IV-14②	誘導機に関する正誤問題
IV-15②	二つの負荷を合成したときの力率計算
IV-16③	大容量変圧器に関する正誤問題
IV-17③	電力用半導体素子に関する正誤問題
IV-18①	三相サイリスタブリッジの電圧波形

IV-19③	制御回路の単位ステップ応答の計算
IV-20②	制御系のゲインの計算
IV-21④	ダイオードを含む回路の計算
IV-22①	理想オペアンプの出力計算
IV-23⑤	論理式の簡単化
IV-24①	論理回路の穴埋め問題
IV-25⑤	瞬時復号可能な符号の選択
IV-26①	時間符号に対応するスペクトルの選択
IV-27①	離散フーリエ変換の計算
IV-28③	z変換計算
IV-29④	インターネット通信に関する記述の正誤
IV-30③	PCMに関する記述の正誤
IV-31⑤	無線変調方式に関する記述の正誤
IV-32②	nMOSトランジスタに関する穴埋め問題
IV-33⑤	論理回路が実現する論理の選択
IV-34④	電気設備の異常の予防に関する法規の正誤
IV-35①	水力、火力発電所の比較の穴埋め

# IV-1 ④

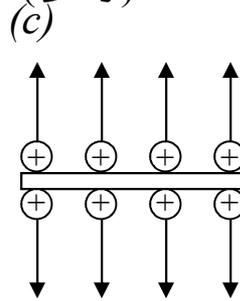


文字記号  $i$  を一般的な文字  $d$  に変える。  
 電界  $E$  により電荷  $q$  に働く力  $f$  は、 $f = qE$  で表される。2つの平面導体（面積  $S$ , 間隔  $d$ ）の作る静電容量  $C$  は、 $C = \frac{\epsilon S}{d}$

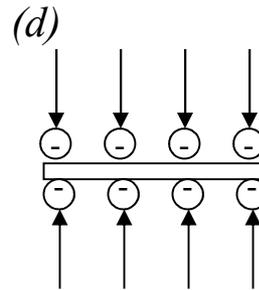
(a) 電圧  $V$  が課電されている状態では、  
 $q = CV = \frac{\epsilon S}{d} V,$   
 $E = \frac{V}{d}$   
 $\therefore f = qE$   
 $= \frac{\epsilon S}{d} V \times \frac{V}{d}$   
 $= \frac{\epsilon S}{d^2} V^2 \propto \frac{1}{d^2}$

(b) 充電後、電源スイッチが切られた状態では、電荷  $q$  が一定に保たれるが、2導体間の電界は  $E = \frac{q}{\epsilon S},$   
 $\therefore f' = qE = \frac{q^2}{\epsilon S}$   
 $q, \epsilon, S$  は  $d$  に無関係で一定なので  $f$  は一定。

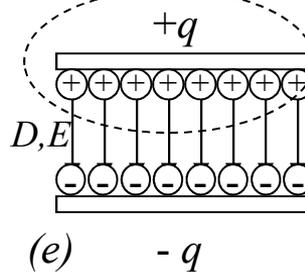
(参考)



左図のような電荷  $q$  を表面を持つ面積  $S$  の平板を考える。平板の上下の電束密度  $D$  は、ガウスの法則から、 $D \times 2S = q$  から、 $D = \frac{q}{2S},$  電界は、 $E = \frac{D}{\epsilon} = \frac{q}{2\epsilon S}$



2枚の面積  $S$  の平板に  $+q, -q$  の電荷があるときは図(c)の上の部分の下に、(d)図の下部分が上に移動し、(e)図のように平板の向き合う空間だけに電束ができ、その密度  $D$  の大きさは、 $DS = q$  から  $D = \frac{q}{S},$  電界は、 $E = \frac{q}{\epsilon S}$



マクスウエルの法則に含まれるガウスの法則は  
 微分形では、 $\text{div } \mathbf{D} = \rho, \quad \mathbf{D} = \epsilon \mathbf{E}$   
 積分形では、 $\int_S D_n dS = \int_V \rho dV, \quad \mathbf{D} = \epsilon \mathbf{E}$   
 積分形の意味は、「閉空間の表面から出て行く電束の垂直成分の和は、その内部にある電荷の総和に等しい」

## IV-2 ④

$$\text{rot } \mathbf{E} = -\frac{\partial \mathbf{B}}{\partial t} \quad (\text{起電力は交差磁束の微分に等しい})$$

電磁誘導の法則

$$\text{rot } \mathbf{H} = \mathbf{i} + \frac{\partial \mathbf{D}}{\partial t} \quad (\text{磁界の周回積分 = 内部電流})$$

アンペールの法則 + 変位電流

$$\text{div } \mathbf{D} = \rho \quad (\text{電束は内部電荷量に等しい})$$

電界に関するガウスの法則

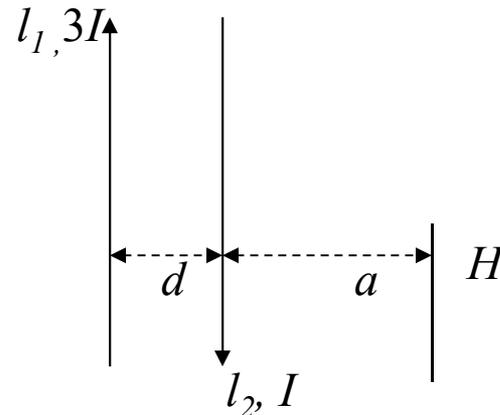
$$\text{div } \mathbf{B} = 0 \quad (\text{磁束は発散がなく連続している})$$

磁界に関するガウスの法則

## IV-3 ②

直線電流による距離  $r$  の位置の  
磁界は、 $2\pi rH = I$  から、

$$H = \frac{I}{2\pi r}$$

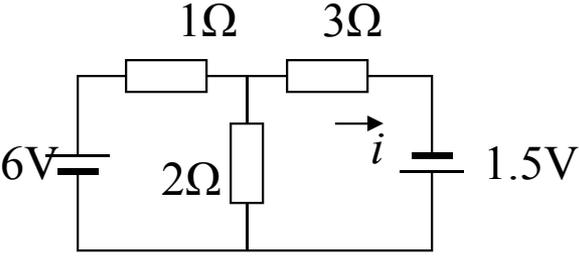


$H$  は、 $I_1$  が作る磁界と、 $I_2$  が作る磁界との和であるから、

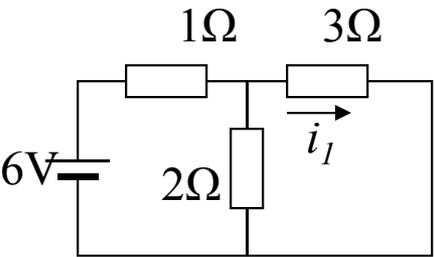
$$H = \frac{3I}{2\pi(d+a)} - \frac{I}{2\pi a} = 0$$

$$\frac{3}{(d+a)} = \frac{1}{a} \rightarrow 3a = d+a \rightarrow 2a = d \rightarrow a = \frac{d}{2}$$

IV-4 ④

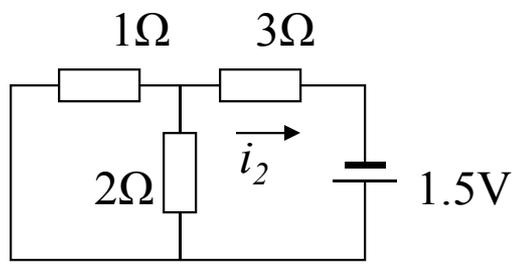


二つの電圧源を分離して重ね合わせの原理で求める。



$$i_1 = \frac{6}{1 + \frac{2 \times 3}{2+3}} \times \frac{2}{2+3}$$

$$= \frac{6 \times 2}{2+3+2 \times 3} = \frac{12}{11}$$

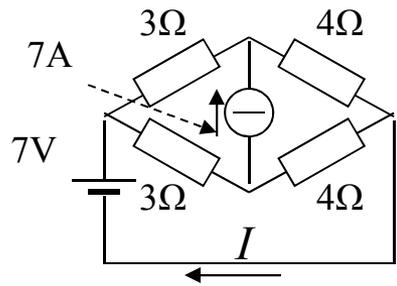


$$i_2 = \frac{1.5}{3 + \frac{1 \times 2}{1+2}} = \frac{4.5}{11}$$

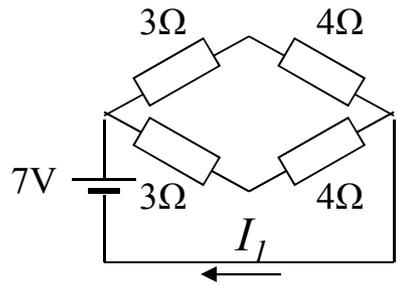
$$i = i_1 + i_2 = \frac{12}{11} + \frac{4.5}{11}$$

$$= \frac{33}{22} = 1.5A$$

IV-5 ①

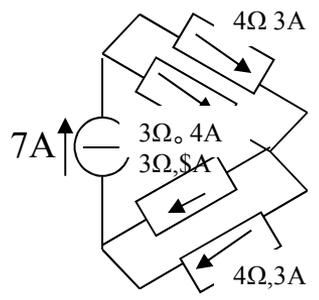
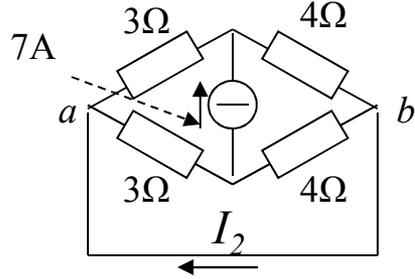


まず、電流分布を、電圧源と電流源を分離して重ね合わせの原理で求める。電流源を取除く時はその部分を開き、電圧源を取除く時は、その部分を短絡する。



左図では、 $I_1 = \frac{7}{7/2} = 2A$

右図では、a,b点が同電位なので、これを結ぶと3Ωには4A、4Ωには3A流れて、 $I_2 = 0 \rightarrow I = I_1 + I_2 = 2A$



## IV-6 ②

まず、出力端子から見た内部抵抗は、電源を取り去り、(電圧源は短絡、電流源は開放)した時の値として、

$$R_3 + \frac{R_1 R_2}{R_1 + R_2} = \frac{1}{G} \rightarrow G = \frac{1}{R_3 + \frac{R_1 R_2}{R_1 + R_2}}$$

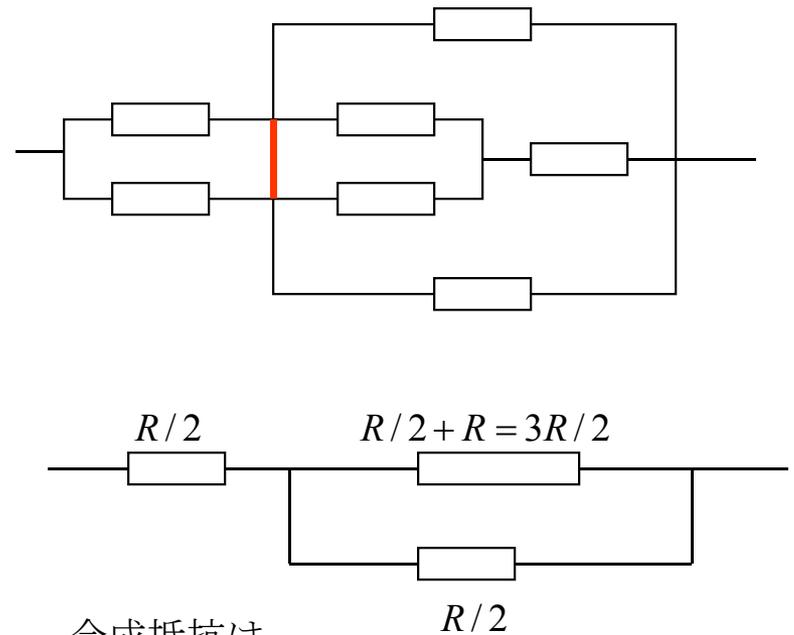
$$\therefore G = \frac{R_1 + R_2}{R_1 R_2 + R_2 R_3 + R_3 R_1}$$

$a, b$ 端子を短絡したときの等価性から、

$$I = \frac{E}{R_1 + \frac{R_2 R_3}{R_2 + R_3}} \times \frac{R_2}{R_2 + R_3} = \frac{R_2}{R_1 R_2 + R_2 R_3 + R_3 R_1} E$$

## IV-7 ④

上下対称であることを利用する。  
対称点の電圧は等しいから、結んでも電流分布は変わらない。



合成抵抗は、

$$\begin{aligned} R/2 + \frac{R/2 \times 3R/2}{R/2 + 3R/2} &= R/2 + \frac{3R^2/4}{2R} \\ &= \frac{R}{2} + \frac{3R}{8} = \frac{7}{8}R \end{aligned}$$

## IV-8 ④

Cに蓄えられる電荷を $q(t)$ 、 $R_1$ を流れる電流を $i_1$   
 $R_2$ を流れる電流を $i_2$ とする。

$$E = R_1 i_1 + v(t) \rightarrow i_1 = \frac{E - v(t)}{R_1}$$

$$v(t) = R_2 i_2 \rightarrow i_2 = \frac{v(t)}{R_2}$$

$$\frac{dq}{dt} + i_2 = i_1$$

$$C \frac{dv(t)}{dt} = i_1 - i_2 = \frac{E - v(t)}{R_1} - \frac{v(t)}{R_2}$$

$$\frac{dv(t)}{dt} = \frac{E}{CR_1} - \frac{1}{C} \left( \frac{1}{R_1} + \frac{1}{R_2} \right) v(t) = av(t) + bE \dots (1)$$

$$b = \frac{1}{CR_1}, a = -\frac{1}{C} \left( \frac{1}{R_1} + \frac{1}{R_2} \right) \dots (2)$$

(1)をラプラス変換すると、

$$sV(s) - v(0) = aV(s) + bE/s$$

$$V(s) = \frac{b}{s(s-a)} E + \frac{v(0)}{s-a}$$

$$= \left( \frac{A}{s-a} - \frac{B}{s} \right) E + \frac{v(0)}{s-a}$$

$$b = sA - B(s-a) = s(A-B) + Ba$$

$$\rightarrow A - B = 0, aB = b \rightarrow A = B = b/a$$

$$\frac{b}{s(s-a)} E = \left( \frac{1}{s-a} - \frac{1}{s} \right) \frac{b}{a} E$$

逆変換して、

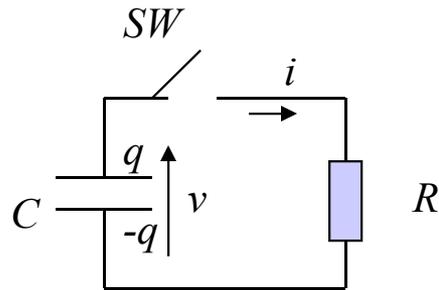
$$v(t) = \frac{b}{a} E (\varepsilon^{at} - 1) + v(0) \varepsilon^{at}$$

$$\frac{b}{a} = -\frac{\frac{1}{R_1}}{\frac{1}{R_1} + \frac{1}{R_2}} = \frac{R_2}{R_1 + R_2}$$

$$v(t) = \left( v(0) - \frac{R_2}{R_1 + R_2} E \right) \varepsilon^{-\frac{1}{C} \left( \frac{1}{R_1} + \frac{1}{R_2} \right) t} + \frac{R_2}{R_1 + R_2} E$$

これは④に等しい。

## IV-9 ②



$C$ の電荷を  $q$ ,  $C$ から流れ出る電流を  $i$  とすると、 $SW$  投入後は次式が成立する。

$$-\frac{dq}{dt} = i \dots (1)$$

$$v = \frac{q}{C} = Ri \dots (2)$$

$$q(0) = CV \dots (3)$$

$$v(0) = V \dots (4)$$

(1)(2)から、

$$\frac{dq}{dt} = -\frac{q}{RC}$$

ラプラス変換して

$$sQ - q(0) = -\frac{Q}{RC}$$

$$\left(s + \frac{1}{RC}\right)Q = q(0)$$

$$Q = \frac{q(0)}{s + \frac{1}{RC}} \rightarrow q(t) = q(0)\varepsilon^{-\frac{t}{RC}} \dots (5)$$

$$i(t) = -\frac{dq}{dt} = \frac{q(0)}{RC}\varepsilon^{-\frac{t}{RC}} = \frac{V}{R}\varepsilon^{-\frac{t}{RC}} \dots (6)$$

① (6)式から、 $i$ は  $t=0$  で最大、以後減衰するので正しい。

② 時定数は (5)式(6)式から  $RC$  である。×

③ (6)式で  $t=0$  として  $i(0) = \frac{V}{R}$  で正しい。

④ 初めに  $C$ に蓄えられていたエネルギー

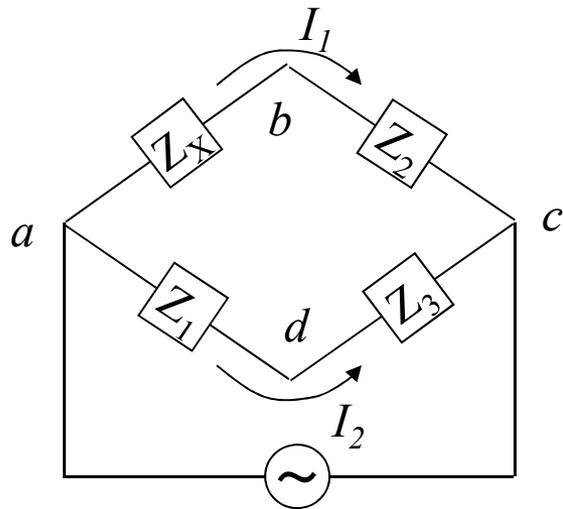
$\frac{1}{2}CV^2$ が全部消費されるので 正しい。

⑤ 正しい。

IV-10 ④

④の式は、 $v(t) = L \frac{di}{dt}$ である。

IV-11 ③



検流計の電流が 0 のとき  $b, d$  点の電位が等しいから

$Z_x I_1 = Z_1 I_2, Z_2 I_1 = Z_3 I_2$  が成り立つ。

比をとると、

$$\frac{Z_x}{Z_2} = \frac{Z_1}{Z_3} \rightarrow Z_x = \frac{Z_1 Z_2}{Z_3}$$

$$R_x + j\omega L_x = \frac{R_1 R_2}{j\omega C_3 + \frac{1}{R_3}} = \frac{R_1 R_2}{R_3} (1 + j\omega C_3 R_3)$$

両辺を比較して、

$$R_x = \frac{R_1 R_2}{R_3}, L_x = R_1 R_2 C_3$$

IV-12 ④

$$P = 9.8QH\eta = 9.8 \times \frac{100}{60} \times 100 \times (1 - 0.1) = 1470 [kW]$$

IV-13 ④

IV-14 ②

## IV-15 ②

$$(P_1 + P_2) + j(Q_1 + Q_2)$$

$$P_1 + jQ_1 \quad P_2 + jQ_2$$

力率  $\cos \theta$  から  $\tan \theta$  を求めておくと、

$$\tan \theta = \frac{\sin \theta}{\cos \theta} = \frac{\sqrt{1 - \cos^2 \theta}}{\cos \theta}$$

$$\cos \theta_1 = 0.7 \text{ のとき、} \tan \theta_1 = \frac{\sqrt{1 - 0.7^2}}{0.7} = 1.020$$

$$\cos \theta_2 = 0.88 \text{ のとき、} \tan \theta_1 = \frac{\sqrt{1 - 0.88^2}}{0.88} = 0.540$$

$$\begin{aligned} & P_1 + jQ_1 + P_2 + jQ_2 \\ &= P_1 + P_2 + j(P_1 \times \tan \theta_1 + P_2 \times \tan \theta_2) \\ &= 300 + 500 + j(300 \times 1.020 + 500 \times 0.540) \\ &= 800 + j576 \end{aligned}$$

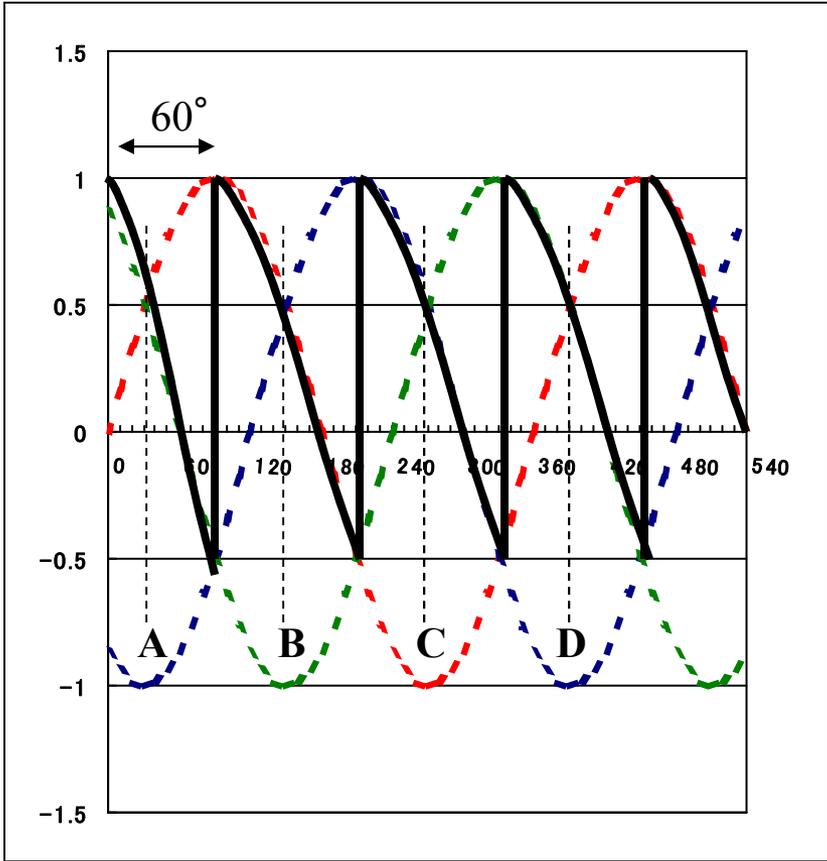
$$\cos \theta = \frac{800}{\sqrt{800^2 + 576^2}} = 0.8115 \dots$$

## IV-16 ③

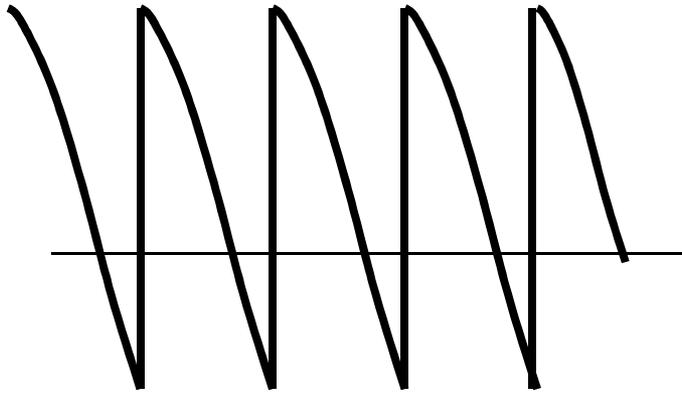
## IV-17 ③

光トリガサイリスタはターンオフはできない

IV-18 ①



制御角=0の点、(左図のA,B,C,...)から  
60度遅れて転流するとき重なり角を無視  
すれば図の黒太線のようにになる。  
太線部分を抜き出すと下図になる。



## IV-19 ③

単位ステップ関数は、 $1/s$ と書けるから

$$Y = G(s)/s = \frac{5}{s(1+3s)} = \frac{A}{s} - \frac{B}{1+3s} \text{と置くと、}$$

$$A(1+3s) - Bs = 5$$

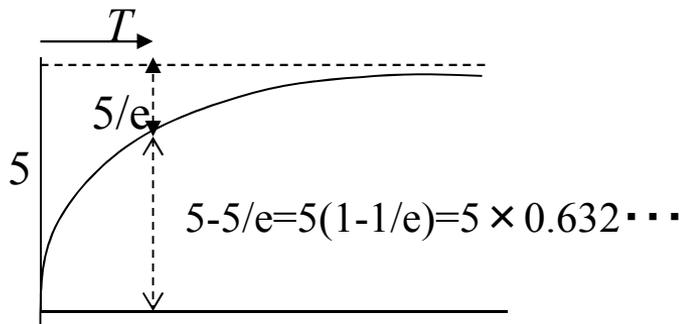
$$A = 5, 3A - B = 0, B = 15$$

$$Y = \frac{5}{s} - \frac{5}{s+1/3} \rightarrow y(t) = 5(1 - e^{-t/3})$$

最終値は ( $t \rightarrow \infty$ ) 5であり時定数は

下図から  $y$  が最終値 5 の  $0.632 \dots$

となる時の時間となる。



## IV-20 ②

系の伝達関数は、

$$G_c = 2 + 3/s = \frac{2s+3}{s} \text{として、}$$

$$G(s) = \frac{(2s+3)/s(s+1)}{1 + (2s+3)/s(s+1)}$$

$$= \frac{2s+3}{s(s+1) + (2s+3)} = \frac{2s+3}{s^2 + 3s + 3}$$

周波数伝達関数は、 $s = j\omega$ と置いて、

$$R(j\omega) = \frac{3+2j\omega}{(j\omega)^2 + 3j\omega + 3}$$

$$= \frac{3+2j\omega}{3-\omega^2+3j\omega} = \frac{\sqrt{9+4\omega^2}}{\sqrt{(3-\omega^2)^2+9\omega^2}} \angle \theta$$

$$\theta = \arctan \frac{3}{2\omega} - \arctan \frac{3-\omega^2}{3\omega}$$

ゲイン  $g$  は、

$g = 20 \log |R(j\omega)|$ 、周波数が小さいとき

$$\lim_{\omega \rightarrow 0} g = 20 \log_{10} \frac{\sqrt{9+4\omega^2}}{\sqrt{(3-\omega^2)^2+9\omega^2}}$$

$$= 20 \log_{10} \frac{3}{3} = 20 \log_{10} 1 = 0 \text{ dB}$$

## IV-21 ④

ダイオードの端子電圧を $v$ 、電流を $i$ とすれば、  
 $4 = 50 \times 10^3 \times i + v$  である。

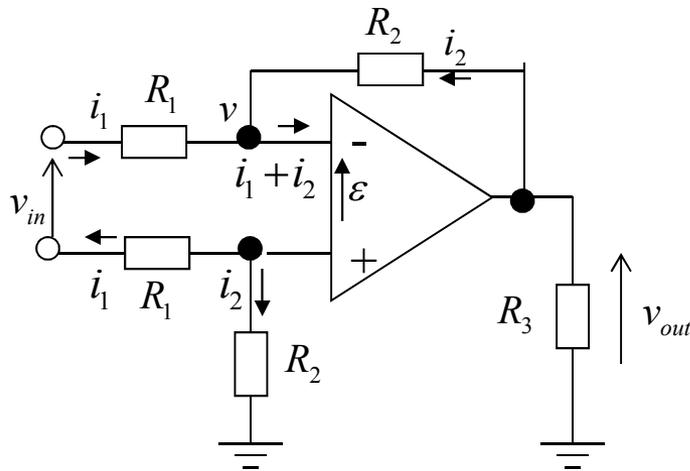
これから、

$$i = \frac{4 - v}{50 \times 10^3} \times 10^6 = \frac{4 - v}{50} \times 10^3 = 20(4 - v) \mu\text{A}$$

$v = 1\text{V}$  では、 $60\mu\text{A}$ となるがダイオード電流は0

$v = 2\text{V}$  では、 $40\mu\text{A}$ となるがダイオード電流は $40\mu\text{A}$

## IV-22 ①



$$i_1 + i_2 = 0, v = i_2 R_2 + \epsilon$$

$$i_1 = \frac{(v_{in} - i_1 R_1 + i_2 R_2) - v}{R_1}$$

$$= \frac{(v_{in} - i_1 R_1 + i_2 R_2) - i_2 R_2 - \epsilon}{R_1}$$

$$= \frac{v_{in} - \epsilon}{R_1} - i_1 \rightarrow i_1 = \frac{v_{in} - \epsilon}{2R_1}$$

$$i_2 = \frac{v_{out} - v}{R_2} \rightarrow i_2 R_2 = v_{out} - v$$

$$i_2 R_2 + \epsilon = v$$

$$i_2 = \frac{v_{out} - v}{R_2} = \frac{v_{out} - i_2 R_2 - \epsilon}{R_2}$$

$$2i_2 R_2 = v_{out} - \epsilon \rightarrow i_2 = \frac{v_{out} - \epsilon}{2R_2}$$

$$i_1 + i_2 = \frac{v_{in} - \epsilon}{2R_1} + \frac{v_{out} - \epsilon}{2R_2} = 0$$

$$\epsilon \rightarrow 0 \rightarrow \frac{v_{out}}{v_{in}} = -\frac{R_2}{R_1}$$

# IV-23 ⑤

Fの否定 $\bar{F}$ をカルノーマップに表示してみる。

$$\begin{aligned} \bar{F}(X,Y,Z) &= XYZ + XY\bar{Z} + \bar{X}YZ + \bar{X}Y\bar{Z} + \bar{X}\bar{Y}Z \\ &= 111 + 110 + 011 + 010 + 001 \end{aligned}$$

であるから、下図の1を埋めた部分になる。

	YZ	00	01	11	10
X					
0		0	1	1	1
1		1	1	1	1

F(X,Y,Z)はこのカルノーマップの空白部(図で青く染めた部分)の和である。すなわち、

$$\begin{aligned} &\bar{X}\bar{Y}\bar{Z} + X\bar{Y}\bar{Z} + X\bar{Y}Z \\ &= \bar{X}\bar{Y}\bar{Z} + X\bar{Y}\bar{Z} + X\bar{Y}Z + X\bar{Y}Z \dots A + A = A \\ &= \bar{Y}\bar{Z} + X\bar{Y} = \bar{Y}(X + \bar{Z}) \end{aligned}$$

# IV-24 ①

A xor B = D と置くと、

$$\begin{aligned} S &= D \text{ xor } C_{in} \\ (D \text{ ア } C_{in}) &= E, \\ (A \text{ ア } B) &= F, \\ E \text{ or } F &= C_{out} \end{aligned}$$

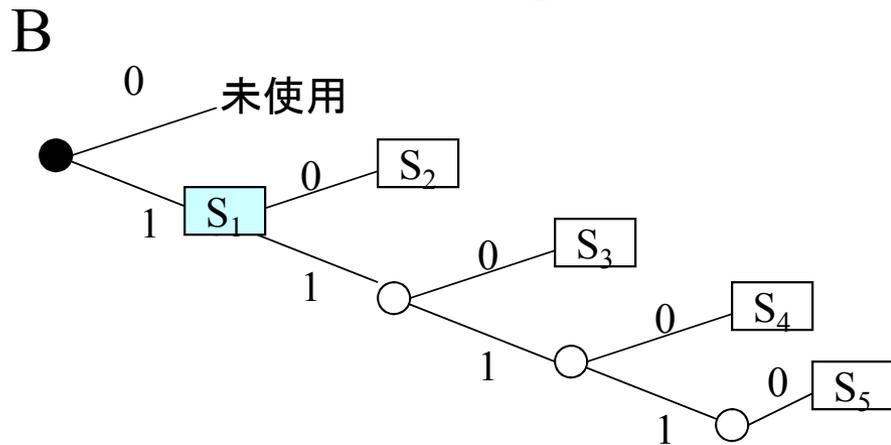
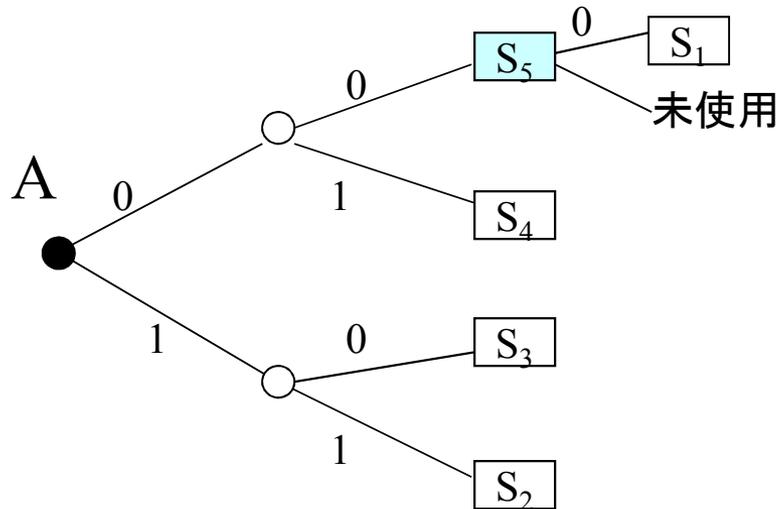
A	B	C <sub>in</sub>	C <sub>out</sub>	S	D	S	E		E or F	E		E or F	E		E or F
							xor	F		or	F		and	F	
0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
0	0	1	0	1	0	1	1	0	1	1	0	1	0	0	0
0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
1	0	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0
0	1	1	1	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	1
1	0	1	1	0	1	0	0	1	1	1	1	1	1	0	1
1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	1
1	1	1	1	1	0	1	1	0	1	1	1	1	0	1	1

$$(D \text{ ア } C_{in}) = E, (A \text{ ア } B) = F, E \text{ or } F = C_{out}$$

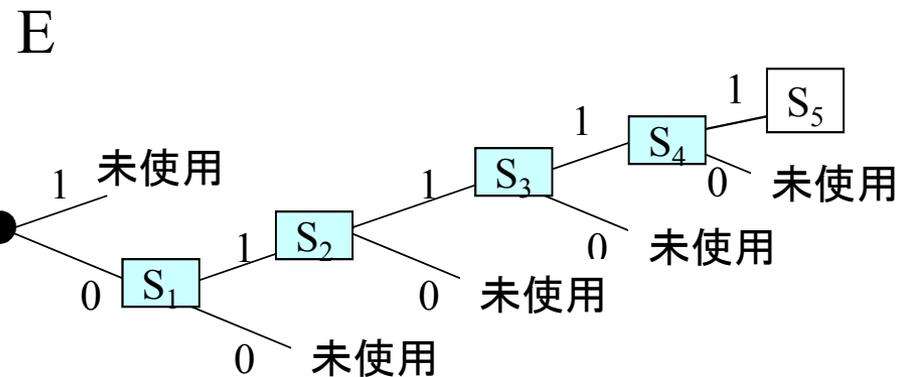
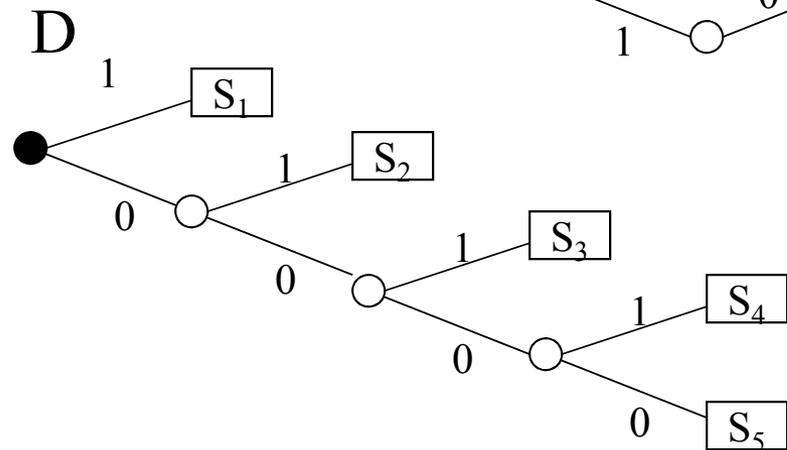
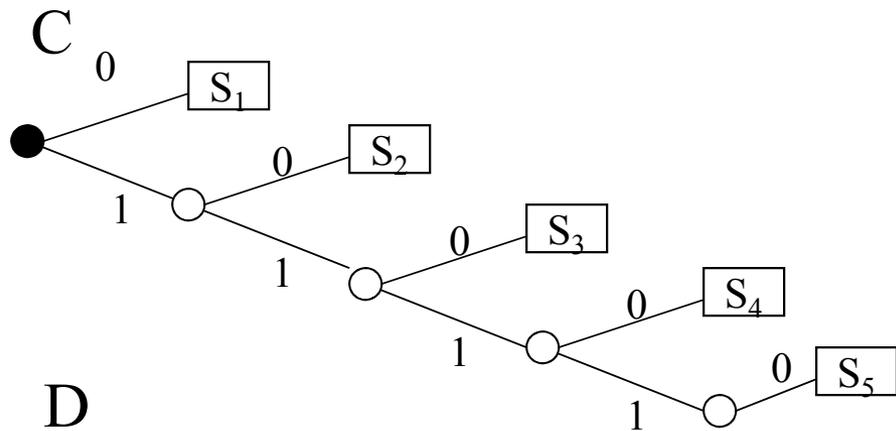
で、アをxor,or,andとして、真理値表を作ると、上の表になり、ア = andのときに、E or F = C<sub>out</sub> が成り立つことが分かる。従って、ア = andである。

IV-25 ⑤

符号の木を作って調べる。



$S_n$  が葉の位置になく、節の位置にあるものは瞬時符号ではない。  
A, B, E がそれに相当する



## IV-26 ①

## IV-27 ①

$$X(k) = \sum_{n=0}^{N-1} x(n)e^{-j\frac{2\pi nk}{N}}, N=6, k=0\cdots 5$$

$$[x(0), x(1), x(2), x(3), x(4), x(5)] = [1, 0, -1, 0, 1, 0]$$

$$X(k) = 1e^0 - 1e^{-j\frac{2\pi 2k}{6}} + 1e^{-j\frac{2\pi 4k}{6}}$$

$$= 1 - e^{-j\frac{2\pi k}{3}} + e^{-j\frac{4\pi k}{3}}$$

$$= \left(1 - \cos\frac{2\pi k}{3} + \cos\frac{4\pi k}{3}\right) + j\left(\sin\frac{2\pi k}{3} - \sin\frac{4\pi k}{3}\right)$$

$$X(0) = 1 - 1 + 1 = 1$$

$$X(1) = \left(1 - \cos\frac{2\pi}{3} + \cos\frac{4\pi}{3}\right) + j\left(\sin\frac{2\pi}{3} - \sin\frac{4\pi}{3}\right)$$

$$= 1 - (-1/2) - 1/2 + j(\sqrt{3}/2 + \sqrt{3}/2)$$

$$= 1 + j\sqrt{3}$$

$$X(2) = \left(1 - \cos\frac{2\pi 2}{3} + \cos\frac{4\pi 2}{3}\right) + j\left(\sin\frac{2\pi 2}{3} - \sin\frac{4\pi 2}{3}\right)$$

$$= 1 - (-1/2) - 1/2 + j(-\sqrt{3}/2 - \sqrt{3}/2) = 1 - j\sqrt{3}$$

$$X(3) = \left(1 - \cos\frac{2\pi 3}{3} + \cos\frac{4\pi 3}{3}\right) + j\left(\sin\frac{2\pi 3}{3} - \sin\frac{4\pi 3}{3}\right)$$

$$= 1 - 1 + 1 + j(0) = 1$$

$$X(4) = \left(1 - \cos\frac{2\pi 4}{3} + \cos\frac{4\pi 4}{3}\right) + j\left(\sin\frac{2\pi 4}{3} - \sin\frac{4\pi 4}{3}\right)$$

$$= 1 - (-1/2) + (-1/2) + j(\sqrt{3}/2 - (-\sqrt{3}/2))$$

$$= 1 + j\sqrt{3}$$

$$X(5) = \left(1 - \cos\frac{2\pi 5}{3} + \cos\frac{4\pi 5}{3}\right) + j\left(\sin\frac{2\pi 5}{3} - \sin\frac{4\pi 5}{3}\right)$$

$$= 1 + 1/2 - 1/2 + j(-\sqrt{3}/2 - \sqrt{3}/2)$$

$$= 1 - j\sqrt{3}$$

IV-28 ③

$$F(z) = \sum_{n=-\infty}^{\infty} f(n)z^{-n}$$

$$F'(z) = \sum_{n=-\infty}^{\infty} af(n)z^{-n} = a \sum_{n=-\infty}^{\infty} f(n)z^{-n} = aF(z)$$

$$F''(z) = \sum_{n=-\infty}^{\infty} f(n-L)z^{-n} = \sum_{n=-\infty}^{\infty} f(n')z^{-n'-L}$$

$$= z^{-L} \sum_{n=-\infty}^{\infty} f(n')z^{-n'} = z^{-L}F(z)$$

IV-29 ④

TCPはコネクション型のプロトコルである。

IV-30 ③

IV-33 ⑤ 次ページ

IV-31 ⑤

IV-34 ④

IV-32 ②

IV-35 ①

IV-33 ⑤

$$F(X, Y) = (\bar{X} + \bar{Y}), \bar{F}(X, Y) = X \cdot Y$$

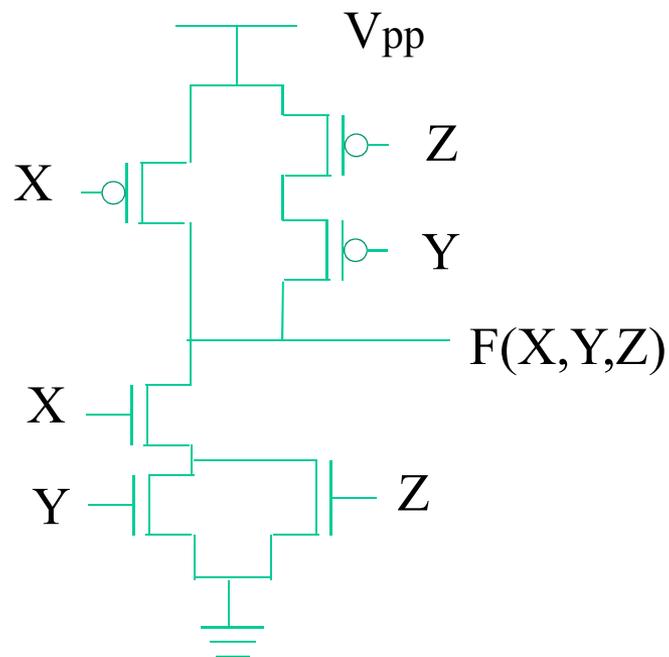
X	Y	XY	$\bar{X} + \bar{Y}$	$\overline{XY}$
0	0	0	1	1
1	0	0	1	1
0	1	0	1	1
1	1	1	0	0

pMOSは否定  
nMOSは肯定  
並列はOR  
直列はAND  
とみなして論理式  
を組み立てる。

$$F(X, Y, Z) = (\bar{X} + \bar{Y} \cdot \bar{Z}), \bar{F}(X, Y, Z) = X \cdot (Y + Z)$$

X	Y	Z	$\bar{X}$	$\bar{Y}$	$\bar{Z}$	$\bar{Y} \cdot \bar{Z}$	$\bar{X} + \bar{Y} \cdot \bar{Z}$	$X(Y+Z)$
0	0	0	1	1	1	1	1	0
0	0	1	1	1	0	0	1	0
0	1	0	1	0	1	0	1	0
0	1	1	1	0	0	0	1	0
1	0	0	0	1	1	1	1	0
1	0	1	0	1	0	0	0	1
1	1	0	0	0	1	0	0	1
1	1	1	0	0	0	0	0	1

## IV-33⑤



CMOS回路を作るには、 $F(X,Y,Z)$ の否定を作り、pMOS回路については、ANDを並列、ORを直列として接続する。  
nMOS回路については、ANDを直列、ORを並列として接続してつくる。  
左図で、 $F(X,Y,Z)$ より上は、pMOS回路なので、この論理回路は、

$$\overline{F(X,Y,Z)} = \overline{X \cdot (Y + Z)}$$

$$\therefore F(X,Y,Z) = \overline{\overline{X \cdot (Y + Z)}}$$

$$= \overline{\overline{X} + \overline{Y + Z}} = \overline{\overline{X} + \overline{Y} \cdot \overline{Z}}$$

$F$ よりも下のnMOS回路についても、

$$\overline{F(X,Y,Z)} = \overline{X \cdot (Y + Z)}$$

$$\therefore F(X,Y,Z) = \overline{\overline{X \cdot (Y + Z)}}$$

$$= \overline{\overline{X} + \overline{Y + Z}} = \overline{\overline{X} + \overline{Y} \cdot \overline{Z}}$$